

## つくば科学フェスティバル2004を終えて

「楽しみ！ドキドキ！びっくり！科学」のキャッチフレーズのもと、つくばカピオにおいてつくば市主催の「つくば科学フェスティバル2004」が10月10日（日）に開催されました。参加機関数は、市内の学校、大学、試験研究機関、企業の研究所など51機関で、農研機構からは、当所のほか、中央農業総合研究センター、果樹研究所、畜産草地研究所が参加・出展しました。

当所ブースの様子を紹介します。

### (1) 動物のお医者さん体験

真っ白な6羽のウサギを会場に運び、ケージの清掃をしているうちに、早くも小さいお客さんたちが「ウサギまーだ？」と列をつくりだしました。獣医のお姉さん（研究員）に抱き方を教わり、聴診器をあてて心音を聞いて「ウサギのお医者さん」になりきった子供たちは、診察後は手指を洗い、「ウサギ博士認定証」をもらってウサギクイズにも挑戦！ 担当者曰く「最後には説明の声が出なくなかった」というほど盛況でした。

### (2) 病気を探せ！ 診断薬の使い方ミニ実験

当所が開発し製造している診断薬（市販品）を使い家さんの病気を検出するミニ実験です。実際に診断薬の製造を担当している生物学的製剤センター製造第1科の職員が総出で、企画から当日の対応までを担当しました。コーナーの壁面全体には研究室内の写真が貼られ、培養タンク（実物）も特別に展示されて、本当の実験室の雰囲気 연출されました。中・高生を対象とした企画でしたが、未就学児までが興味津々行列をつくっていました。帽子にマスク、白い防護服を身に纏った参加者は、診断薬の使い方の指導を受け、真剣に実験に参加していました。実験終了後には体験の記念として参加者自身の写真入りの「体験証」がプレゼントされました。コーナーの担当者は参加者から「どんな勉強をしたらこのような仕事に就

けるのですか？」という質問を受けたそうで、それは疲れを忘れるほど嬉しいことだったようです。



### (3) 顕微鏡をのぞいてみよう！

BSEと高病原性鳥インフルエンザのパネルを展示し、研究員が説明にあたりました。科学フェスティバルには父兄はじめ成人の来訪者も多いので、担当者は、児童から成人までの幅広い年齢層に分かりやすく説明をするよう気を配っていました。

希望者には、実際に病理組織を顕微鏡で観察していただき、写真をプリントしてプレゼントしました。初めて目にする鳥インフルエンザウイルスの写真に父兄の方々はとても興味を示していました。

配布物等からみて動衛研ブースの来訪者数は千人を超えたものと推定されます。当日は、台風のため開催中止となった前日分までが凝縮されたような多忙な1日でしたが、多くの方々の協力で無事に終了することができました。協力下さった方々も、好奇心に満ちた来訪者（子供たち）からエネルギーをもらい、楽しみながらご参加いただけたのではないかと思います。

（広報委員会事務局 情報資料課）